

日本のミュージアム建築 100 年 — 前川國男の仕事を通して



前川國男とル・コルビュジェ 1951 年 ロンドンにて 前川建築設計事務所蔵

2026年 **11月7日** 土
14:00 – 15:30 受付 13:30 –

講 師

松隈 洋 氏

神奈川大学教授、京都工芸繊維大学名誉教授／工学博士

兵庫県立美術館 KOBELCO ミュージアムホール

神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1 〒651-0073

(最寄駅：阪神岩屋駅 / JR 灘駅 / 阪急王子公園駅)

先着順(定員150名)

聴講無料

今から100年前の1926(昭和元)年、東京・上野公園内に日本で最初の公立美術館として東京府美術館が開館しました。岡田信一郎が設計を手掛けた同館は、わが国において初めての恒常的な美術展の会場として様々な展覧会の舞台となりました。1975(昭和50)年には老朽化と展示スペース拡充のため、前川國男の設計による東京都美術館新館が開館、2012年に大規模な改修を経て現在に至ります。前川による同館は日本を代表するモダニズム建築として多くの来場者を迎えています。

今年が日本の美術館建築の歴史の100年という節目であることから、前川國男に師事され、前川をはじめとするモダニズム建築に関する数多くのご研究によって著名な研究者である松隈洋氏をお迎えし、安藤忠雄の設計による当館へとつながっていく「日本の美術館建築 100年」をテーマにお話をうかがいます。



松隈 洋 氏 (まつくま ひろし) プロフィール

1957年兵庫県西宮市生まれ。1980年京都大学工学部建築学科卒業、前川國男建築設計事務所入所。2000年4月京都工芸繊維大学助教授、2008年10月同教授、2023年4月から神奈川大学教授。京都工芸繊維大学名誉教授。工学博士(東京大学)。専門は近代建築史、建築設計論。主な著書に『建築の前夜 前川國男論』『未完の建築 前川國男論・戦後編』『ル・コルビュジェから遠く離れて』『モダニズム建築紀行』『ルイス・カーン』『近代建築を記憶する』『坂倉準三とはだれか』『建築家・坂倉準三「輝く都市」をめざして』『残すべき建築』など。「生誕100年・前川國男建築展」事務局長、「文化遺産としてのモダニズム建築—DOCOMOMO20選」展と「同100選」展のキュレーションの他、数多くの建築家を取り上げた建築展に携わる。『建築の前夜 前川國男論』(みすず書房 2016)により、2019年日本建築学会賞(論文)受賞。続編にあたる『未完の建築 前川國男論・戦後編』(みすず書房 2024)により、2025年第79回毎日出版文化賞(人文・社会部門)、2025(令和7)年度第76回芸術選奨文部科学大臣賞(評論部門)、2026年日本建築学会著作賞を受賞。